鶴見川水系流域治水対策プロジェクト【中間とりまとめ】（案）

～全国でも有数の都市河川における流域と一体となった治水対策の推進～

資料－1

○ 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、鶴見川水系においても、事前防災対策を進める必要があることから、以下の取り組みを実施していくことで、戦後最大の昭和33年9月洪水と同規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。

鶴見川流域

■河川における対策

対策内容：堤防整備、護岸整備、河道掘削、深掘れ対策、河道拡幅、洪水調節施設　等

■流域における対策

- 下水道における雨水貯留施設、排水施設の整備
- 下水道施設の耐水化
- 防災調整池の管理
- 浸透ます、浸透管の管理
- 建物内の雨水貯留施設の整備
- 一定規模以上の開発行為に対する雨水貯留・浸透施設の設置指導
- 住宅等における各戸貯留対策
- 透水性舗装の管理
- 校庭等貯留施設の管理
- 自然地の保全
- 移動式排水設備（排水ポンプ車等）の整備
- 土のう等の備蓄資材の配備等
- 自治体との光ケーブル等接続
- 簡易型河川監視カメラの設置　等

※今後、関係機関と連携し、対策検討

■ソフト対策

- 多機関連携型タイムラインの策定、運用
- 講習会等によるマイ・タイムラインの普及促進
- 要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- 自治体職員対象の排水ポンプ車運転講習会の実施　等

※今後、関係機関と連携し、対策検討

横浜市鶴見市場周辺

凡例

- 浸水範囲（戦後最大の昭和33年狩野川台風に対する想定氾濫解析）
- 国管理区間
- 流域界

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

※上図には危機管理対策等は含まれていない。

※河川管理上必要な河道掘削や樹木伐採を実施する場合がある。